

第2回八戸市学校適正配置検討委員会会議録

日 時：平成21年6月18日（木）13:00～15:00

場 所：八戸市庁本館3階 議会第一委員会室

出席者：（委員）目修三、古館良策、今勝康、大島光子、今川一、黒澤宗男、古館義美、
岩村隆二、日山祥子（以上9名）

（市教委）松山教育長、芝教育部長、伊藤教育部次長、高野課長、
佐々木副参事（学務GL）、磯嶋学務G主査、町井学務G主査（以上7名）

計16名

事務局：本日はお忙しい中ご参会いただきましてありがとうございます。定刻となりましたので、ただいまから第2回八戸市学校適正配置検討委員会を開催させていただきます。本日は北向委員が所用のため欠席というご連絡をいただいておりますが過半数の出席でございますので、八戸市学校適正配置検討委員会設置要綱第5条第3項の規定によりまして本日の会議は成立となりますことを皆様にご報告させていただきます。

事務局：続きまして、前回、欠席でございました黒澤委員が本日ご出席されておりますので、自己紹介をお願いいたします。

（黒澤委員挨拶）

事務局：ありがとうございます。それでは、ここからは進行を目委員長にお願いしたいと思います。よろしくをお願いいたします。

委員長：それでは会議を進めさせていただきます。会議に入る前に、審議の進め方について事務局から説明をお願いいたします。

（事務局「審議の進め方について」説明）

委員長：ありがとうございます。各地区の審議のまとめ方については資料02と資料03のような形式でよろしいでしょうか。事務局から事前に論点の整理はいかがでしょうかとありました。事務局で把握している論点は明確に出してもらったほうが良いと思います。もちろん委員の皆様が、独自に「こういう問題がある」という場合には大いに検討していただきたいと思います。とりあえずこういう形で資料を準備していただくということでもよろしいでしょうか。

（委員異議なし）

委員長：事務局は大変だと思いますが、次回からは委員会の前に各委員に資料を届けていただき、委員の皆様には事前に目をとおしていただく審議も進みやすいと思います。それではこのような形式で資料を用意していただくことにします。引き続き、事務局から各地区の説明をお願いいたします。今回、下長と北稜は重なり合う問題も多いので一括して説明をお願い致します。

（事務局「下長中学校地区のまとめ・北稜中学校地区のまとめについて」説明）

委員長：ありがとうございます。これから具体的な学区についての審議を進めたいと思いますが、まず、今、説明のありました資料02、資料03につきまして質問がありましたら審議に入る前にここで事務局に確認しておきたいと思います。

委員長：先ず、私から質問します。学区外通学のところで、距離的理由はもちろん分かりますが、「留守家庭」とは誰か見てくれる人の近くという意味でしょうか。「留守家庭」と「教育的配慮」について、具体的なケースは結構ですが説明をお願いします。

事務局：お答えいたします。まず「留守家庭」についてですけれども、特に小学校の低学年の場合が多いわけですが、先ほど委員長からもございましたが、お父さん・お母さんが共働きで学校から帰ってきて誰も見てくれる人がいない場合、子どもの安全を考えて、面倒を見てくれるおじいさん、おばあさんの家がある学区の学校へ通学し、そこに帰宅できるように配慮している場合がございます。「教育的配慮」については様々なケースがございます。また、部活動に配慮するケースもございますし、例えば小学校6年生の子どもさんで、違う学区に家を建てた場合は、希望すれば小学校卒業まで転校せずにそのままの学校でという場合もございます。

委員長：ありがとうございます。他にご質問はありませんか。もし審議の途中でも、ご質問があれば事務局から説明を受けたいと思います。それでは、下長中学校地区を中心に委員の意見を承りたいと思います。特にどの内容についてということはこちらで指定いたしませんので、気がついたところから議論をお願いします。なお、実質1回目の会議ということもあって私も進め方が難しいのですが、事務局とも相談したところ、直ちにこの下長・北稜地区についてある程度の結論を出すことにとらわれなくてもいいということですので、じっくり時間をかけて議論していただければと思います。だんだん慣れてくれば効率的に議論も進むものと思います。どなたか意見はございませんか。

委員：下長中学校が八戸でも一番大きい学校ということだが、この中学校へ進学する小学校が3つある。そのうち高館小学校が2クラスぐらいしかないのが現状で、しかも今後減り続けている。にもかかわらず下長中学校の人数が変わらないというのは、他の小学校がもっと増えていくということだと思う。よく見てみると、下長小学校が増えていく。その分が、中学校にいくと変わらないということになる。高館小学校は日計ヶ丘小学校まで距離的に1キロしかない。一方、高館の学区がものすごく広いので、これを日計ヶ丘小学校にくっつけてもいいものなのかということが、この下長中学校地区の問題であると思う。例えば高館小学校を半分に分けるといようなことも議論の対象になるものか。

委員長：それも議論していくところだと思います。

委員：それに付随して、州先のほうも絡んでくるので、北稜中学校地区と下長中学校地区と一緒に審議をやっていったほうが良いと思う。

委員長：そうですね。そういうことで下長と北稜は絡んだ問題ですから、説明も一緒にさせていただきました。是非、そういう形で議論して下さい。これは他の学区でも出てくる問題ではあると思いますが、高館小学校と日計ヶ丘小学校は本当に近い。学区の真ん中に小学校があれば問題ないのしょうけれど、日計ヶ丘小学校区を見ても、かなり片寄った位置にあるわけですから通学路の問題からすれば大きな問題だと思います。事務局にお伺いいたします。高館の左側の方に、子どもさんを持つような民家はあるのでしょうか。線路の左側に子どもさんがいて日計ヶ丘小学校まで通うとなると大変だと思います。

事務局：住宅地は皆無かどうかは分かりませんが、主に住んでいるのは、線路の右側になります。

委員長：はい、わかりました。これに関連して、または似たような問題を列挙するためにご意見はご

ございませんか。

委員：小田地区の坂の下から距離はどれくらいあるのか。そこから下長小学校や城北小学校に何人か通っている生徒もいるようだが。PTAをやりたいくないので坂の上に通わせたくないという父兄の意見もあったみたいだ。

委員長：距離の関係でいうと高館小学校と日計ヶ丘小学校だけではなくて、根岸小学校も日計ヶ丘小学校と近いですね。

委員：学区というのは中学校や小学校ができた時に決められたものか。変更があるものか。原則として、学区はいつ決めるのか。

事務局：基本的に学校ができたときです。その学校ができたときにどの学区が適正かについて通学区域審議会で審議し、学区についての答申により学区を決定いたします。

委員長：高館小学校と日計ヶ丘小学校はそんなに高度差はないのでしょうか。

委員：高度差はない。

委員長：根岸小学校については少し高度が下がるみたいですね。それと学校関係者意見照会の意見の中にありましたが、日計ヶ丘小学校を残すべきだという意見があったということは、学校を無くしてもいいという意見に対抗して出た意見でしょうか。日計ヶ丘小学校を廃校にして2つに分けるといような意見が出ているのでしょうか。

事務局：そこまでの意見は出ておりません。むしろ新しい学校ですので、他の学区から日計ヶ丘小学校の学区の方へ入ってもらって児童を多くしてはどうかというご意見は出ています。

委員：6年後の日計ヶ丘小学校の生徒数（推計）が増えている。

事務局：これは、今現在いる方がそのまま小学校に入学した場合の推計です。この地区は自衛隊の方が多いという特殊事情があります。自衛隊は出入りがあるのでこのとおりに推移するとは限りません。

委員：私は、逆になると思う。若い自衛隊の人たちは子どもが学校に入るようになると家族を出身地へ返す。若いうちは夫婦で住んでいて、後は単身で官舎に残る。

委員：日計ヶ丘小学校の人数が将来増えるかどうかは全く不透明ということか。

委員長：議論の前提としてあったほうがいいと思いますが、一つの小学校を存続させるとして、しかも各学年だいたい均等に児童がいるとした場合に、教育委員会や行政の常識として、何名ならば小学校を存続できるという基準はありますか。答えにくい質問ではありますが、常識的な線というものがあるのでしょうか。それが一つの目安になると思います。いい悪いの議論は別にして、例えば今の場合ですと高館小学校が6年後205名とあります。205名で小学校が維持できるのかどうか、150名になった場合はどうするのか、そういった議論ですね。もう一つこれに関連して、分校システムというのは現在考えられるかどうか。例えば、小学校の低学年は分校で家庭に近いところで、高学年になったら少し距離はあるけれど本校に統一するというようなことが今の行政で検討できるのかどうか。もし、そういう事例がありましたら教えていただくと議論をしていく上で役立つと思います。

事務局：かつては交通事情が悪かったり様々な理由で分校はありましたが、八戸の場合はちょっと分校は考えにくいです。

委員長：私の聞いた話では、昔は、交通の不便だったところは先生方も不便であった。だから教員を分校に派遣せざるをえなかった。今の時代ですと、教員はかなり機動力がある。ですから、

分校には多くの教員を置かなくても必要に応じて、曜日によって教員を分校に派遣できる状況が現在はある。そういったところも昔の分校との情勢の違いかなとちょっと考えてみました。人数のほうは、だいたいの常識的な線というものはあるのでしょうか。

事務局：法律では適正規模がこのぐらいとか記載しておりますが、それに合わせると適正でない学校がたくさん出てきます。いろいろな考え方がありますが、集団のスポーツができるとか、クラス替えができるとか、そういうようなところが適正配置の時には、議論になってくると思います。

委員長：そうしますと、この間伺ったほしい 30 名ぐらいの学級が基本だろうという話ですと、1 学年 1 学級を認めるとして 6 学年だと 180 名です。そうすると 180 名を切ってしまうと存続が問題になるというのは考えておいていいのでしょうか。極端に言うと 1 学級 10 名でもやるところはやる、地域の特性があればやるとは思いますが一般論としてできるかどうか。ここでの議論は、高館小も 205 名ですので下手をすると 1 学年 1 学級になってしまう。小学校として存続できるかどうかの議論がされると思います。日計ヶ丘小も現在で 152 名、状況によっては考えられると思います。その他意見はありますか。

委員：下長中学校が八戸市で現在、人数が一番多いということで、部活動もかなりやっている。それはいいと思うが、北稜中の人数は若干減っている。北稜中学校の人数を増やし、下長中学校の人数を若干減らすということで考えると、小田、海上前、高館ニュータウンの学区外通学の見直しや、逆に北稜中学区から下長中に学区外で通っている生徒がいるので、その辺の見直しをしていけばいいと思う。

州先町内についても学区が二つに分かれている。歴史的な背景もあってなかなか簡単に割り切れないものもあると思うが、その辺の見直しをしていけばいいと思う。日計ヶ丘小学校の校舎が新しいとなれば、校舎の存続をする意味でも高館から通える子どもたちとかの通学路見直しをしたほうがいいと思う。意見にもあるが、部活動については仕方がない。中学校にある部活動が小学校に必ずなければいけないというのは、これはそう簡単にはいかないと思う。

保護者が一番問題にしているのは通学路の問題で非常に多く意見が出ている。坂を上りたくない、歩道が狭いとか、教育委員会以外の担当課でやらなければならない問題が出てるのでそれはそれで解決しなければならない。

下長中の人数を若干減らす、それから北稜中の人数を増やすためには小学校のどこかの学区の線引きをうまくやったらいいのかと思った。

委員：日計ヶ丘小学校の児童は自衛隊がほとんどである。例えば北朝鮮のミサイルが発射された場合どうなるのかなどを考えると、適正配置は難しい判断になるのかなと思う。高館小学校は児童数が減少傾向にあって、高館小学校の地域の方々も言ってるが、今後増える要素がない。学区外通学は、仲良しクラブか児童館がどこにあるかで選択の一つになっている。学校の施設を借りている仲良しクラブは年間 250 日開設するのに四苦八苦している。学校が土日や夏休み等は貸してくれない。年間 280 日以上実施しないと国の補助が出ないが、今は仲良しクラブの件も無視できない。このことも考えていかなければならない。そうでなければ、学区外ももっともっと人の動きが激しくなるというような気がする。

委員：仲良しクラブとは学童保育のことか。

委員：そうです。学童保育という言い方もしている。

事務局：学校の敷地外に児童館があれば、放課後はそこに行って保護者が迎えに来るまで過ごしています。もう一つは学校の空き教室を利用しています。そうすると、受入れ曜日と時間が若干違ったりします。それによって、児童館がある隣の学校に行かせたいという場合も出てきます。

委員：それは聞いたことがある。働いている保護者の方にすれば下校後の子どもたちのことが心配なの、できれば学校のそばに児童館なり公民館なり、仲良しクラブをやっているところを調べて選ぶというのは聞いたことがある。

委員：その所管はどこがやっているのか。

事務局：子ども家庭課です。

委員：児童館も仲良しクラブも所管が子ども家庭課である。児童館は子どもの公民館であり、地域の子どもたちがいつでも自由に誰でも利用できるのが児童館である。ところが今、現実的には、主として3学年以下の子どもたちを抱え込むような形で見られている。本来の目的とはちょっと違っている。それとは別に、3学年以下の子どもたちを面倒みてあげますというのが仲良しクラブである。場所は、できれば学校の空き教室、あるいは民家、地域でやれる範囲でやってください、と言われている。したがって、そういう二つの方法があって、児童館に行く人はいいのだが仲良しクラブのほうは大変である。

委員：現実問題、そういう場合は学校ではなく、他のところで見てもらっているということか。

委員：私が住んでいる地域の小学校では、今まで公民館でやっていた学童保育を学校の空き教室を利用してやっている。学校のほうも、防犯上いつでも入れるように、職員室は土曜日でも先生が入れるように改修したようである。学校がそのようにやってあげると土曜日の学童保育も可能となる。

委員長：今、二つの大きな論点が出ていますが、一つはやはり学校の収容人数です。それによってある程度思い切った見直しが必要なのではないかということ、それからもう一つは学区外通学をしなくても済むような環境ということ、この2つの話が出ていたと思います。この件でも結構ですが、ご意見いかがでしょうか。

委員：児童館や仲良しクラブの設定というか、下長中学区の小学校にはどこにも児童館・仲良しクラブはないのか。

委員：ある。八戸市の場合、小学校はほとんど網羅している。無いのは4カ所ぐらいである。

委員長：仲良しクラブや児童館が学区にあっても、おじいちゃんおばあちゃんが別の学区にいる場合はそっちのほうがよいということもあるわけで、これで学区外通学がゼロになるかといえばそうはいかないと思います。児童館の利用をどうしても考えなければいけないという父兄にはそういう環境が整っていたほうが、無理して学区外通学を考えなくてもよく、同じ町内の中で子どもを育てられるということはあると思います。

(児童館・仲良しクラブの一覧を委員に配付)

事務局：放課後児童クラブ開設一覧でいきますと、下長仲良しクラブ・城北仲良しクラブ・高館仲良しクラブなどがあります。下長仲良しクラブは下長小学校に併設されており、城北仲良しクラブは民家です。城北には仲良しクラブがもう一つあります。

委員長：地区の問題はどうでしょうか。一番典型的なのは先地区が、城北と根岸に分かれています。

地図上の距離から行くと、妥当な区域かと思いますが。

事務局：州先町内は根岸の連合町内会である。

委員：放課後児童クラブの所管は子ども家庭課とのことだが、ここで出た意見というのは子ども家庭課には影響するのか。

事務局：地域意見交換会の際もそうですが、教育委員会だけでは解決できない問題につきましては、例えば通学路や歩道の問題については市長部局に伝えています。同じようにここでの意見については関係課にお伝えいたします。

委員：改善の見込みはあるのか。

事務局：これから何をどう改善していくのかによろしいと思います。例えば低学年のお子さんの放課後の居場所として、仲良しクラブは今はほとんどの小学校にあるということになっておりますので、今後は各校毎にさらに踏み込んでいくことも必要かと思っております。

事務局：八戸の場合は町内単位で学区を決めていますが青森市は大字・小字の住所で学区を決めています。地域の活動などを考えると、町内のほうがいいのではないかと考えております。一長一短があると思っております。

委員長：中学校区で言いますと、先ほども指摘されましたが、北稜中のほうが少ないわけですから、北稜中学区の人数を増やすことが検討課題なのでしょう。州先の場合は学区を一つにすればこれは大きな問題が起こる。州先はあまりいじれないということになると高館、日計ヶ丘、根岸、その辺でどういう調整が必要なのか、あるいは当分、様子を見守っていくのかということになるかと思っております。そういう形に、私には議論の方向が見えているのですがいかがでしょうか。

委員：高館小学校の生徒を北稜中学校区へ変更するというような調整はできないか。

委員：資料にあるが、昭和 57 年に北稜中学校を新設する際、当時、高館小学校は北稜中学校とされていたが、地元の反対運動で下長中学校に残ったとなると、まだちょっと厳しい。よく見ると、北稜中学校は高館小学校よりも新しい。地元の人たちが出た学校よりも新しいところというのはやはり抵抗があるのか。

委員：その当時の記録はあるか。反対の主な理由とか。昭和何十年代と今とは交通事情も変わっていると思う。単なる歴史の問題、感情論なのか。

委員長：資料を見ると、この地区の学校はみんな下長小学校から分かれています。ですから、感情としてはむしろ「根本」が一緒である、同族意識なんだろうと思います。ですからそれを隣に行けと言われたときにどう思うかですね。

委員：地域に古くから住んでいる方と新しく来た方との違いがあるのだろうと思う。

委員長：その辺は十分に考える必要はあると思いますけれど、これからの学校教育という問題点もありますので、そこは地元の理解を得られるような努力をしながら適正配置について考えていく必要があると思います。

委員：中学校の教員の科目の適正配置ということは、ある程度人数がないとできない。それを考えた場合、ある程度、北稜の方にまわしたほうが、科目の先生方も適正に配置ができると思う。難しいところである。

委員：建前としては子どもたちにより良い教育環境を与えることを第一優先にしなければならないのだが、子どもが卒業してもう学校に通わせていない保護者とか、地域の方とか、もともと

そこに住んでいる方々の、言葉は悪いが「エゴ」や「思い」などがあると、結局はまた元のままとということになりかねない。だから州先の学区が二つに分かれている。子どものことを考えれば一緒にしたほうがいいのではないかと思うが、今度は連合町内会の話などが出てくるとちょっと、という感じになる。小学生の徒歩圏は30分ぐらいがアンケートを見ても一番いいようである。30分以内というのは2キロメートルぐらいか。

委員：だいたい2キロぐらいである。

委員長：その関連で、これも町内が分かれることにはなりますが、小田の国道から下のほうを下長小学区に移すということも考えられると思います。高館小学校がそのまま北稜中になってしまうと北稜中が大きくなりすぎてしまい、逆に下長中が小さくなってしまい、そういうこともあるかもしれません。

委員：高館小学校区の海上前という町内は同じ自衛隊関係なので日計ヶ丘小学区の海上・陸上自衛隊官舎町内とあうのではないか。

委員：これを議論する時に、例えば旧市内から1学年1学級は避けようとか、複式学級は維持したいとかいう、そういう基本的なものがなければ議論が進みにくい。それがあれば、通学距離がどうだという問題ではなく、高館は1学級になってしまうのだからこれを何とかしなければならぬ、となってしまう。

委員長：私もそういう感じがしました。いい悪いは別にして、八戸市として基本的にどう考えるか、例外はあるにしても、1学年2クラスは堅持するという方針なのか、1学年1学級としてそれが30名を割り込むようなことになった場合は統合も辞さないと考えていいのか、その辺を念頭に置いておきませんか、議論がまとまらないのは確かだと思います。こういうのは教育委員会も言いつらいと思いますが、実際上は、1学年1学級では学校の運営自体は非常に苦しいものがあるのでしょうか。実態としてはいかがでしょうか。今、1学年1学級というところもあると思いますけれども、教員配置その他ですね、小学校といえども高学年になると先生方が全部が全部教えているわけではないと思いますけれど。

事務局：中学校の場合は先ほど出ていましたが、勉強教科の関係、ある程度教科の先生は必要だと思います。実際、市内では複式の学校もあって揃わないところもあります。ただ、今までは市教委として方針は出さないで自由にご意見をいただくことにしています。方針を出すことによって、混乱を招く恐れがあります。

委員長：こういう審議をしていく上で、財政などそういったものは避けて通れないと思います。理想的な話をして見えてこないものを議論しても意味がないと思います。中学校は最低でも1学年2クラス、そうすると平均して6学級以上という目安が成り立つと思いますが小学校ではどうなのでしょう。

委員：複式にならない限りは1クラスでもいいのではないかと。

委員長：複式にならない数となるとだいたいどれぐらいなのか。

委員：複式が成立するのは何人ずつか。

事務局：1年生を含む場合は2つの学年合わせて8人以下で、それ以外は16人以下です。

委員：長い目でみれば、高館と日計ヶ丘は一つにしたほうがいいと思う。

委員：先日報道で見たが、今後小学校の複式のことも話題になってくると思う。現にある小学校は児童が4名である。意見を聞くと、人数が少なくても学区で皆で面倒見ているから、学校を

つぶすのは反対だと言っている。そうした場合、統合できないようなことになると検討委員会でもなかなか話が進まない。最低限複式は解消しなければならないなど思っている。実際、4人の児童で学校運営ができるかとなるとこれはもう現実的には無理な部分もある。

委員：職員のほうが多くなる。

委員：今後いろいろ検討していく段階で、1学年1学級でいいのか、できれば2クラスあれば理想的だとは思う。そうすると、高館と日計ヶ丘を思い切って見直したほうが良いと思う。当然反対は出てくるだろうが、その辺がこれからの委員会でも頭を悩ますところだと思う。

それから、新聞を見ると耐震化の問題が騒がれているので、この間の柏崎小学校の件で、新聞を見ると、学区の再編を視野に入れた小中学校の適正配置に取り組んでいるということだが、耐震化事業が学区再編との兼ね合いの中で求められるというようなことになると、これからは耐震化の問題も合わせてやっていかなければならない。そういうことは、教育委員会としても今後検討していくのか。幸い、今回議論になっている下長・北稜地区は耐震化には関係ないのでいいのだが。

事務局：適正配置と耐震化はリンクさせてやらなければならない部分があるだろうと思います。柏崎は新聞で報道のように改築しなければならないと出ているわけです。そうすると今の場所がいいか、青葉がいいか、そのことによってまた学区が変わることもまた予想されます。

委員長：柏崎の議論はむしろ行政のほうで判断いただいて、こちらの検討委員会の方の検討は新しい学校ができたならその学校を前提とした学区の選定をしたほうが良い。こちらの方と絡めてしまうと早急に必要な手が打てないということになると、私は個人的には思います。

私の独断ですが、今日は結論を出さなくてもいいと思います。かなり微妙な問題がでておりましたので、もう少し議論を続けていただきたいのです。今重要なのは高館、日計ヶ丘、吸収するとなれば根岸を含めた議論になると思いますけれど、学校がこの3つあることを前提に議論するというのがいいのかどうか。確かに地域の皆さんの感情などは重要だと思いますが、子どもたちの環境面にも配慮しなければ、この委員会が存在している意義がありませんので、そういうところを踏み込んで議論をしていただきたいと思います。もう少し時間があるようですが関連してご意見ありますか。

委員長：内舟渡では似たような議論は出ていないのでしょうか。地図では西園小学校が見えていますが、下長小学校と場所によってはこうした議論がありそうな気がします。

委員：内舟渡はほとんど田んぼで人家が少ないようだ。

事務局：参考までに申し上げますと、個別の保護者からの相談でこういった事例がございました。内舟渡には産業道路が走っていますけれども、川を渡って売市のほうに来ると江南小学校というのがあります。ですから、内舟渡の交差点のあたりの方々が下長小学校に通うよりは、距離的な視点からだけというと、川を越えて売市のほうの江南小学校が近いので、そちらに通いたいと言うご相談があったという事実はあります。そういった意味では、内舟渡も広い町内でありますので、下長小学校に通うよりは、西園小学校や江南小学校に通いたいという意向を持っている保護者さんもいらっしゃるということです。

委員：現実に何人か橋を越えて内舟渡から江南へ行っていないか。

事務局：留守家庭や他の事情で通っている児童がいるかもしれませんが、少なくとも距離的理由では、教育委員会では認めていません。

委員長：事情があれば学区外通学を認めるという方向でいくとなると、適正規模だとかむしろそういったことを基に議論できる。その辺も学区を原則守るのか、事情があれば認めるのかはこれからの議論でやっていきたいと思います。学区外通学をゼロというわけにはいかないと思います。やはりいろいろ事情がありますので。ただ先ほど出ました児童館だとか、そういうものは、生活環境の話としてはできるだけ注意したほうが良いと思います。

事務局：情報ですけれども、内舟渡から江南小学校へ通学している児童は今のところゼロです。歩道が広いので、内舟渡から橋を渡っていくほうが通学路としては安全だと思います。尻内方面に向かってちょうど、道路沿いが宅地化されています。そういう方々だと思います。先ほど、内舟渡の話が出ましたので報告しますが、本当は西園小学校のほうが近いと、そこから通っている子どもさんが下長小まで距離的にはけっこうあるということになります。三条中学校学区の地域意見交換会をやった際にどういった意見が出てくるのか、後ほどご検討いただければと思います。

委員：先ほど、高館小学校を日計ヶ丘小学校と統合という話があったが、高館小学校がこのままでいくと2015年には205名、単純に6で割ると1クラス30数名になる。そうするとどこかと吸収合併したほうが良いという話になると思うが、日計ヶ丘小という意見もあるが、いっそのこと、下長小学校と一緒にしたほうが良いと思う。距離的には遠いが、地域のことを考えると下長小というのもありだと思う。これだけ人が少なくなってくると、選択肢の一つに入れてもいいと思う。

委員長：そうですね、同じ学区のほうが合併するときに抵抗が少ないという住民感情はあると思います。やはり歴史があるようですので。また、日計ヶ丘がちょっと先が読めないというのが、問題点ではあります。確実に児童が減るのであれば、新しい学校にしても根岸と合同化するということも考えられると思います。

委員：仮に高館小学校をどこかにくっつけるという話になれば、全部を動かすのではなくても小田は下長小学校、海上前、高館ニュータウン、第二高館は日計ヶ丘小と分けてもいいのかもしれない。

委員長：現在、同じ町内会が2つの学区に分かれてもいいものなのかどうかという議論、それから学校の運営を考えた時に、適切な規模ということを考えたら、具体的には高館小学校、日計ヶ丘小学校、これを何とかしなければいけないのではないかと議論ができました。それから、非常に大きな学区、また新しい住宅ができていることを考えると、その辺もまた考慮しなければならないのではないかと、という議論もできました。今回は最初ということもありますし、こういうような議論がでたところで今日の審議は終わりたいと思います。この次に下長・北稜地区についての方向性を出したいと思います。その後の議論の中でまた必要ならば振り返って戻る、そういうやり方にしたいと思いますが、いかがでしょうか。

(委員異議なし)

委員長：それではそういう形で、今回の下長・北稜地区につきましては、審議未了、継続審議ということにさせていただきます。事務局から、意見交換会が終わった順番に審議をしていきたいという話がございますので、次の学区は美保野中学校区ということになりますが、委員の皆様、それでよろしいでしょうか。

(委員異議なし)

委員長：では、そういう形で今後の審議の予定を組ませていただきます。どうもありがとうございました。それでは事務局へお返しします。

事務局：事務局からご報告事項がありますので何点か説明させていただきます。

(事務局から報告事項説明)

事務局：それでは最後に次回委員会の日程を決めさせていただきたいと思います。大変恐縮ではございますが事務局の原案として7月14日(火)午後1時からとしましたが委員の皆様ご都合が悪い方いらっしゃいますでしょうか。

(委員から、1時30分のほうが都合いいとの意見有り)

事務局：それでは午後1時30分とします。それでよろしいでしょうか。

(委員異議なし)

事務局：では次回は7月14日(火)午後1時30分から午後3時30分まで、場所は同じくここで開催したいと思います。それでは長時間にわたりありがとうございました。以上を持ちまして会議を閉じさせていただきます。ありがとうございました。

以上